

第3章

再開発から現在

Public Art

環境と生活

教育機関

ヨコハマポートサイド地区



再開発から現在

背景と再開発

■背景

ヨコハマポートサイド地区(約25.1ha)は、横浜東口から至近距離に位置していますが、

国道や河川等に分断されていました。また、戦後の「戦災復興土地区画整理事業」により整備された影響もあり、低層の工場・倉庫や密集した住宅および作業所併用住宅が多く立ち並び混在していました。



▲開発前 1971年(昭和46年)航空写真 『横浜市航空写真再製承認番号 令5建都計第9201号』

「みなとみらい21」開発計画に伴い、1985年（昭和60年）みなとみらい地区とヨコハマポートサイド地区とを結ぶ都市計画道路「栄本町線」が整備されるのを契機に地元を対象に「街づくりを考える会」が発足し、

翌年ヨコハマポートサイド地区中央部（約4ha）が「ヨコハマポートサイド地区第二種市街地再開発事業」として横浜市が施工することを決定しました。



▲開発当時 1985年（昭和60年）航空写真 『横浜市航空写真再製承認番号 令5建都計第9201号』

■再開発事業の目的

1988年（昭和63年）に「アート & デザインの街」というコンセプトを掲げて都市型

住宅供給を軸に文化・芸術関連施設の集積を図るとともに質の高い魅力的な街づくりを目指しました。



▲開発当時 1997年（平成9年）航空写真 『横浜市航空写真再製承認番号 令5建都計第9201号』

■街づくりの目標

多様なニーズに対応した都市型住宅の導入

にぎわいと街の魅力を創出するための複合的土地利用の推進

安全で快適な歩行者空間の形成

ウォーターフロントを活かした独創的な都市景観の創造

街づくりテーマ「アート & デザインの街」に沿った、
文化・芸術関連機能の集積

横浜市ポートサイド地区都市計画（地区計画）資料より

地区選定の主旨

横浜駅至近でありながら倉庫・工場等の低利用に留まり高速道路や国道で分断されていた当地区において、市街地再開発事業による施設整備に加え、住宅市街地総合整備事業及び地区計画により土地利用更新と良好な開発への誘導を図り、都市型住宅を中心とする新たな複合市街地を形成しました。

デザインを重視した質の高いまちづくりを実現すべく、「アート & デザインの街」を街づくりの基本テーマに、事業推進上の共通ルールとして「街づくり協定」を締結しており、運用面においても「街づくり協議会」によって特色ある街づくりを推進しています。

「全国市街地再開発資料」より

■再開発の概要

栄本町線が貫通する E-1～E-3街区（約4ha）は第1期プロジェクトとして、横浜市

が第二種市街地再開発事業を実施し、1994年（平成6年）に竣工しました。



▲ E-1～E-3街区完成写真

E街区に隣接するF-1街区（約2.02ha）については、ポートサイド地区の街づくりを

目指し、組合施工の第一種市街地再開発事業として2003年（平成15年）に竣工しました。



◀ F1街区完成写真
（ザ・ヨコハマタワー提供）

ヨコハマポートサイド地区開発計画（約18.5ha）を導入したうえで、きめ細やかな街づくりを推進するための共通ルールとして「街づくり協定」が1989年（平成元年）に締結されました。

それと同時に、民間の創意・工夫を最大限に発揮しつつ特色あるまちづくりを推進するために、協定の運営 母体として地元

企業による「街づくり協議会」が組織されました。

さらに1995年（平成7年）に公益信託「ヨコハマポートサイドまちづくりトラスト」を発足し、街づくりに必要な環境整備、調査研究、街づくりに寄与するイベント、広報活動等を行う団体等に資金面での援助が行われています。